

# マリンビジョン女性交流会議 かわら版



第18号 2025年2月発行



マリンビジョン女性交流会議かわら版では、交流会議の活動内容、地域での活動内容、新しい情報などをお伝えします。皆さんで知恵を出し合って、活動の輪を広げていきましょう！

## 令和6年度 MV女性交流会議が開催されました！

### 開催概要

#### 【概要】

マリンビジョン女性交流会議は、札幌での意見交換（WEB 会議形式併用）と現地調査の二部構成で実施しました。

今年度のテーマは「地域マリンビジョンにおける女性の関わり」で、地域おこし協力隊として積丹町で活動されている小山彩由里氏をお招きし、積丹町での海業振興に向けた取り組みについてご講演いただきました。また、各地域マリンビジョンにおける女性の活動や関わり方について討議を行いました。

さらに、海業振興に関して先進的な取り組みを行っている千葉県鋸南町の保田漁港と、衛生管理対策等で先進的な取り組みを行っている東京都の豊洲市場にて、現地調査と意見交換を実施しました。

#### 【出席者】

中央大学研究開発機構教授 片石温美委員長をはじめ、7名の女性委員、各地域のオブザーバーが出席しました。



片石委員長



北海道開発局  
植野農業水産部長



会議名：令和6年度マリンビジョン女性交流会議  
日時：令和6年11月12日(火)14:00~17:00  
場所：TKP ガーデンシティ札幌駅前ホール 3B  
開催形式：対面及びWEB 会議形式

#### 【委員名簿】

	氏名	所属・役職	意見交換	現地調査
委員長	片石 温美	中央大学研究開発機構 教授	○	○
委員	太田 美香	遠別漁業協同組合 女性部長	WEB	-
委員	米森 みゆき	北るもい漁業協同組合 苫前支所 女性部長	-	-
委員	木村 都久子	寿都町漁業協同組合	○	○
委員	阿部 明美	福島吉岡漁業協同組合 福島地区女性部長	-	-
委員	北川 洋子	室蘭漁業協同組合 女性部長	○	○
委員	松本 真紀	いぶり中央漁業協同組合 虎杖浜地区女性部長	-	-
委員	高野 恵里子	ひだか漁業協同組合 三石地区女性部長	-	-
委員	川村 真弓	大津漁業協同組合 女性部長	-	-
委員	堀 陽子	厚岸漁業協同組合 女性部長	-	-
委員	山形 由紀子	落石漁業協同組合 女性部長	○	○
委員	田仲 雅子	歯舞漁業協同組合 女性部長	-	-
委員	清水 さゆり	羅臼漁業協同組合 女性部長	-	-
委員	畠山 美佐	ウトロ漁業協同組合 女性部長	○	○
委員	川口 睦子	常呂漁業協同組合 女性部長	○	○
委員	高宮 恵利子	雄武漁業協同組合 女性部副部長	WEB	-
委員	松浦 あかり	積丹町農林水産課 主事	打「ガ」-	○
委員	濱田 武士	北海学園大学 開発研究所長	-	-
主催者委員	西崎 孝之	北海道開発局農業水産部 水産課長	○	○

#### ■講師紹介:小山 彩由里 氏 (積丹町地域おこし協力隊)

茨城県出身。大学では観光経営学、うちエコツーリズムを専攻し、未就学児向け自然体験・自然調査補助員など野外活動に明け暮れる。

卒業後はアウトドアメーカーへ勤めたのち、自分なりの環境教育を実践するため、積丹町の地域おこし協力隊へ。

今後は「地域振興」「資源の保全」「観光推進」の三本柱で、積丹町における「学び」の拠点づくり・プログラム化をすることが目標。



積丹町地域おこし協力隊の小山氏より、「将来までつなげる！町の資源に付加価値を生み出す積丹式海業と続ける仕組み」と題して、「SHAKOTAN 海森計画」を中心とした、歴史的建築物やウニを用いた海業や、教育活動、企業と地域が連携した活動等に関してご講演いただきました。

講演や質疑応答の内容について、一部ご紹介いたします。



積丹町地域おこし協力隊 小山氏

## 【講演内容】

### ◆積丹町について

- ・森、川、海が一つの町内で完結する希少な地形で、漁業のほか、農業、畜産業もさかんである。
- ・人口は減少の一途を辿り、高齢化も進んでいる。
- ・ニシン漁の歴史が感じられる番屋や石蔵が今も残り、鯨番屋は資料館兼カフェとして営業している。石蔵は漁具を保管していた倉庫を改装し、イベント利用や観光の拠点として活用している。

### ◆ウニ漁業の現状

- ・磯焼け現象によりウニの餌となるコンブが不足し、ウニの生産量が低下。そこで「ウニから始まる SDGs」という活動を立ち上げ、漁業者が中心となってウニの剥き身生産で残った殻を肥料として有効利用する取り組みを行っている。
- ・こうした取り組みが町の仕事として地域に根付けば、新たな雇用に繋がるほか、資源を枯渇させないための重要な業務となる。

### ◆「SHAKOTAN 海森学校」とは

- ・積丹町では色々な事業者が横の繋がりをもって事業を進めるためプラットフォームを作っており、「SHAKOTAN 海森学校」はその一つである。
- ・自然や歴史、産業、暮らしなどの資源の活用を進めていくとともに、様々な分野において「学び」をプログラム化し、積丹町地域の理解を深めていただく機会の創出を目指す。
- ・漁業関係では、一般の方が普段見ることのできない「水揚げ」や「セリ」の瞬間を知ってほしいと思い、「SHAKOTAN 海森学校」が仲介役となって漁業者と一般の方を繋ぐ仕組みづくりを展開している。
- ・積丹町の森、川、海が町内で完結する地形を活かし、自然の繋がりを体感していただくプログラムや、灯台の歴史を活用したプログラムなども展開している。“体験”を通して海や環境、水産業の現状を知り、考えるきっかけとなることを期待している。

### ◆人材の確保

- ・人口減少により、産業の源である森・海の管理、観光地の整備を担う人材が減少し、観光の持続化が難しくなる。これらを維持・継続する担い手の育成と、新たな担い手として意欲ある企業、団体、個人を地域に誘導する必要があるため、地域力をまとめ上げる場として「SHAKOTAN 海森計画」を立ち上げた。
- ・「SHAKOTAN 海森計画」では会員制度を導入しており、現在個人会員 400 名以上、パートナー企業団体が 25 社入会している。
- ・この小さな漁村の積丹町に、なぜ企業や団体が集まるのかというと、積丹町役場が官民連携を大きく意識していることが要因だと思う。



### ◆環境の未来、社会の未来

- ・積丹町の未来を考える上で“環境”と“社会”はセットで考える必要がある。
- ・地域のおじいちゃん、おばあちゃんはたくさんの経験を持っており、そうした文化の発信場所を作り、地域活力をあげていくことが海業振興にも繋がる。
- ・環境及び文化的視点で、「積丹型エコツーリズム」の展開と仕組みづくりを推進していくために、「SHAKOTAN 海森計画」を来年度法人化し、自走化する計画である。

## 【質疑応答】

### ◆地域おこし協力隊として小山さんが考える積丹の一番の魅力は？

⇒一つに絞るのは難しいが、一番は自然だと思う。国道を挟んで青い海と森の緑のコントラストが綺麗で、関東平野のど真ん中に住んでいた自分にとって新鮮だった。自然がもたらす歴史文化を始めとする恩恵や広がり面白い町だと感じている。(小山氏)

### ◆地域の資源量の変化を体感してから、育てる事業の重要性を実感した。地域おこし協力隊のような外部の人が先導してくれることで、物事がより一体感を持って進むのではないかと感じた。

⇒積丹町の取り組みはまとまった大きな動きに見えるかもしれないが、実際は細々と動いている最中で、ウニ殻肥料も10年かけて行政と研究機関が仕組みを作った段階。地域の方が主体的に仕事や町の取り組みを進めること、自分たちもそれを促進するよう意識して活動することが、今後の10年、20年で必要である。(小山氏)

### ◆ウニ殻を使ったコンブの再生事業(藻場造成)は積丹町が主体となって取り組んでいるのか?また、研究機関の協力はあるのか?

⇒藻場造成は、ウニ漁業者の団体が自主的に15年前から始めた取り組みである。長年成果が出なかったが、諦めずに続けたことで今は広い藻場が造れるようになった。技術的な支援や指導を行うのは積丹町の水産業技術指導員である私の担当で、研究については北海道大学水産科学院にもウニ殻の科学的な根拠について研究してもらっている。(積丹町水産業技術指導員 水鳥氏)



積丹町水産業技術指導員 水鳥氏

## 討議

- ・各地域の活動状況について
- ・地域マリナビジョンにおける女性の関わりについて(フリートーク)

事務局よりマリナビジョン女性交流会議の概要について説明した後、各地域より女性部の活動内容や地域マリナビジョンへの関わり、新たな地域マリナビジョンへの関わり方についてご報告いただきました。

また、地域マリナビジョンにおける女性の関わりについて、フリートーク形式で討議を行いました。討議における主な意見は以下のとおりです。



木村委員【寿都】



川口委員【サロマ湖】

### 【女性部員不足の対策・各地域の女性部の状況について】

- ◆ 室蘭地域では、若い漁業者のお嫁さんはいるが、別の仕事をしている人が多く、女性部に入ってくれない。また、高齢になって辞める女性部員も毎年2,3人いる。(北川委員)
- ◆ 寿都地域では、女性部を復活させたいと考えている。女性同士の交流はあるが、若い女性は共働きの夫婦であることが多く、現状で若い人を女性部に引き入れるのは難しい。(木村委員)
- ◆ 常呂町では、近年は新しく入ってくれる女性部員よりも引退する女性部員の方が多く、年々女性部の人数が減っている。女性部の旅行や新年会といったものが時代と共に魅力に感じられなくなっており、女性部に入る必要性が理解されていない。女性部が存在する理由や、女性部の面白みを説明しなければならない。(川口委員)
- ◆ 落石地域では、70歳を超えると女性部を辞める風潮がある。自分のエリアではお姑さんからお嫁さんに難なく引き継がれているが、そうではないエリアもあるし、未婚の人が増えていることもあり、女性部員は年々約2,3人ずつ減っている。(山形委員)

### 【地域マリンビジョン策定への女性の関わりについて】

- ◆ 室蘭地域では、女性部もマリンビジョンの活動に積極的に参加したいと思っている。(北川委員)
- ◆ ウトロ地域では、修学旅行生にサケを捌かせて料理をしてもらってはどうかと考えていた。昨年の現地調査で福井県小浜市のブルーパーク阿納の施設を見て、小規模であればウトロでもできると確信した。(畠山委員)
- ◆ 寿都地域では 10 年以上、渚泊の受入れを行っていた。漁師の自宅や会館に泊まってもらい、定置網の見学や、獲れたてのサケでイクラ作り体験をしていたが、現在はコロナ禍の影響で休止している。漁業体験は夫婦で取り組んでおり、乗船体験で夫が漁船にお客さんを乗せている間に食事の準備等を私が行っている。また、十数年前から学校授業の依頼を受け、ホッケの三枚おろし体験や、すり身作り体験を行っている。(木村委員)
- ◆ 落石地域では、コンブの操業時期だと作業があり忙しい。女性部や青年部でこんな活動がしたいという構想はあるが、忙しさ故に何か自発的に活動しようという気が起きない状態である。(山形委員)
- ◆ 雄武地域では、女性部活動に限らず人員確保に非常に苦戦している。新たな活動に回せる人手が不足しているため、最低限今行っている活動を絶やささないよう、現状維持の状況である。(高宮委員)
- ◆ 今後、積丹町のマリンビジョンの取組と小山さんの取組が関連していく可能性はあるか?(片石委員長)  
⇒積丹町にシーフードサービスの拠点を作りたいと考えており、マリンビジョンと関連して行えたら良いと思う。積丹町には魚を買える場所が無いため、ツアーの時に土産として魚を買える場所が必要だと感じる。(小山氏)  
⇒寿都にも魚を買えるお店があったが、コロナ禍で休業したままとなっているため、今後の活用方法を検討中である。(木村委員)



北川委員【室蘭】



畠山委員【ウトロ】



山形委員【根室(落石)】



高宮委員【雄武】



太田委員【遠別】

### 【女性交流会議で得た情報の活用について】

- ◆ 女性交流会議の内容について、毎年行われるマリンビジョン協議会による会議には必ず出席し、会議内容を報告している。(畠山委員)
- ◆ 前部長が女性交流会議でアクリルたわしを知って、室蘭地域に導入したことがある。料理のレシピ等、参考にできることがたくさんあると感じている。(北川委員)
- ◆ 昨年の現地調査で行った福井県高浜町では、売れない小さな魚をバーベキュー用の串に刺して海水浴場で販売しており、参考になった。また、ブルーパーク阿納で見た魚を捌く調理施設の仕組みが画期的で、自分の地域にも欲しいと思った。(川口委員)
- ◆ 他の女性部さんたちの取り組みや抱えている課題を見聞きし、自分の地域の取り組みの参考にさせてもらっている。(山形委員)
- ◆ 今年は部長が所用のため副部長の自分が代理で参加したが、他地域の取り組みを知るよい機会であった。今後もぜひ機会があれば参加したいと思う。(高宮委員)

### 【その他】

- ◆ 誰でも簡単に3分で作れるホタテの味噌煮のレシピを新たに開発した。(川口委員)
- ◆ 値段がつかない未利用魚(例えばゴソガレイ)を冷凍保存しておき、手が空いた時に珍味に加工しており、職員の間で人気が出ている。そのように付加価値をつける売り方をしている。一方で、シマヅイは時期が悪くと全然売れないため、根室で作成している料理の本にシマヅイのレシピを載せるなど工夫している。(山形委員)
- ◆ 過去の女性交流会議では、マリンビジョン料理レシピを作成し、開発局のホームページで公開している。各地域で新たなレシピ開発が行われているようなので、レシピの更新を検討してみてもは?(片石委員長)



片石委員長

### 【主催者より】

- ◆ 女性部の皆さんは各地域で色々な取り組みをされているので、この会議で情報交換をしていただき、さらに活動が活発になることを期待している。
- ◆ 今まで女性部だけでは動かせなかったことや、発想が転換しなかったこともあったと思うので、新しい視点や外の視点を入れることや、自ら色々なところを見て反映していくことは大事である。



会議終了後に記念撮影

女性交流会議翌日（現地調査1日目）は、海業振興に関して先進的な取り組みを行っている千葉県鋸南町（きよなんまち）の保田漁港（ほたぎょこう）を訪れ、保田漁港周辺施設の現地調査及び鋸南町保田漁業協同組合での意見交換に参加しました。

また、現地調査2日目には、衛生管理対策や物流の円滑化に関して先進的な取り組みを行っている東京都豊洲市場にて現地調査を行い、水産仲卸売場等を視察しました。

現地調査の様子を写真とともにご紹介します。

現地調査の概要

日 時	令和6年11月13日(水)～14日(木)
調査内容	<保田漁港> ・保田漁協直営食堂ばんや食堂にて昼食 ・鋸南町保田漁港 現地調査 ・鋸南町保田漁業協同組合の取組紹介、意見交換 ・道の駅保田小学校 現地調査 <豊洲市場> ・施設説明、水産卸売場・水産仲卸売場を視察

保田漁港

鋸南町保田漁港に到着後、保田漁協直営ばんや食堂（第3ばんや）にて昼食をとりました。こちらは団体客対象の食堂で、コースのお膳料理が主になります。直売コーナーでは保田漁港で水揚げされた魚介類や干物の他、お土産品等が販売されていました。都心から日帰り可能な立地でもあり、平日にもかかわらず多くの来客があり賑わいをみせていました。

その後は漁協事務所やビジターバースなどの施設を見学後、鋸南町保田漁業協同組合の小林参事より保田漁協の取り組みについてご紹介いただき、意見交換を行いました。



漁協直営食堂（第3ばんや）



提供している料理



店内の様子



ばんや直売コーナー



直売コーナー内の干物



直売コーナー内の天日干し



鋸南町保田漁協



保田漁港 ビジターバース



定置網漁船

## 【保田漁協の取り組み紹介】

- ◆ 当組合の二本柱は定置網事業と食堂事業「ばんや・ばんやの湯」である。
- ◆ 海洋性レクリエーションの利用者増加に伴い、都市漁村交流を推進している。実際に定置網漁を見学できる「定置網漁体験プログラム」が好評を博している。
- ◆ 保田の定置網漁の年間水揚げは 800~1,200 トンほどあり、アジ、サバ、イワシが主である。組合員の主な漁法である刺網の年間水揚げは 70~80 トンほどで、ヒラメが主である。
- ◆ 平成 7 年 7 月に漁協直営食堂「ばんや」を開業。開業から 30 年弱で、近年では年間 30 万人の交流人口があり、年間売上高は 5 億円を超えるまでになった。
- ◆ 食堂では保田漁協で水揚げされる魚を使用し、地産地消により余計な輸送コストをかけず、最大限の利益が出るよう営業している。



意見交換の様子

## 【意見交換】(鋸南町保田漁業協同組合 小林参事、販売部 鈴木氏)

- ◆ 年間の来客数は?(畠山委員)  
⇒令和 5 年度は年間 27 万人程度で、台風の影響で例年より 5 万 5 千人ほど減少した。(保田漁協)
- ◆ ばんや食堂では、漁協女性部の方が働いているのか?(片石委員長)  
⇒女性部は以前あったが、人数不足により無くなってしまった。ばんや食堂は社員 16 名とパート従業員 40 名で運営している。(保田漁協)
- ◆ 観光定置船の体験は一年中に行っているのか?(山形委員)  
⇒以前は一年中に行っていたが、北海道の観光船の事故後に遊漁船の制度が変更され、観光定置船はその制度に該当しないものの、安全を考えて現在は中止している。(保田漁協)
- ◆ 準組合員が多いが、いずれ正組合員になる予定はあるのか?(畠山委員)  
⇒準組合員は親から漁師を受け継いだが会社員を本業としている人が多く、年間漁業日数が正組合員の基準に達していない。以前は正組合員数の方が多かったが、現在は逆転しており、減少傾向にある。(保田漁協)
- ◆ 今後行いたい取り組みは?(川口委員)  
⇒マリナーの拡張を考えている。利用者が多いほど利益につながるが、現時点で 55 隻のマリナーの利用待ちが発生している。(保田漁協)
- ◆ ばんや食堂等の取り組みに行政からはどのような支援があったのか?(開発局)  
⇒農山漁村活性化プロジェクト支援金などの支援を受けている。(保田漁協)
- ◆ 定置網見学は朝食はつくのか?価格設定は?(木村委員)  
⇒定置網見学とばんやの湯のセットで 2,000 円、漁で獲った魚を朝ごはんに付ける場合はプラス 1,000 円で 3,000 円の価格設定としている。(保田漁協)

保田漁港の後は、「道の駅保田小学校」へと移動しました。こちらは旧保田小学校をリノベーションして作られた道の駅で、その中の「きよなん楽市」は旧保田小学校の体育館をリノベーションした直売所です。また、小学校に隣接する旧鋸南幼稚園を再利用して「都市交流施設・道の駅保田小付属ようちえん」もオープンしています。委員からは、「廃校は自分の地域にもあるので、参考にしたい」といった声が挙がりました。



きよなん楽市(外観)



きよなん楽市(内観)



都市交流施設・  
道の駅保田小学校・附属ようちえん

## 豊洲市場

### 【豊洲市場 説明】

- ◆ 平成 30 年 10 月に開場。豊洲市場の水産物の取扱量は国内 1 位で、卸売業者 7 社、仲卸業者 457 業者、売買参加者 295 業者となっており、取扱数量・金額は 1 日あたり約 1 千トン・約 17 億円、年間約 30 万トン・約 4,420 億円である。
- ◆ 豊洲市場は大きく 3 つのブロックに分かれており、青果棟のある 5 街区、水産卸売場棟のある 7 街区、水産仲卸売場棟のある 6 街区等に分かれている。それぞれ道路の下を連絡通路が通っており、外に出ることなく場内を行き来することができる。特に水産卸売場棟と水産仲卸売場棟の間は、国道 484 号線の下に連絡通路が通っており、建物の外に出ることなく、温度管理したままで魚を運搬できる。
- ◆ 豊洲市場は閉鎖型施設で、温度管理ができ、衛生管理に配慮された施設となっている。低温管理することで、「3~4 日ほど魚の持ちがよくなった」、「魚の色落ちが遅くなった」と飲食店や小売店の方から高評価である。
- ◆ 円滑な物流を実現するため、豊洲市場は築地市場に比べて約 1.8 倍広くなっており、主に外周道路や駐車場を拡張している。
- ◆ 令和 6 年 2 月より、水産仲卸売場棟に隣接して「千客万来」という商業施設がオープンしている。観光客向けの施設で、飲食店やお土産店の他、温泉や宿泊施設がある。



豊洲市場 説明風景



豊洲市場 説明風景



水産展示スペース



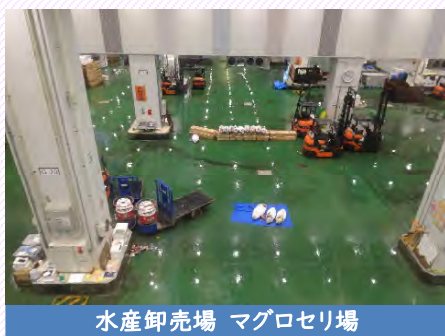
水産卸売場棟連絡通路



水産卸売場棟の説明



豊洲市場の構造説明



水産卸売場 マグロセリ場



水産卸売場 見学スペース



水産仲卸売場

以上で現地調査を終了し、委員はそれぞれ帰路につきました。  
委員並びにオブザーバーの皆様、保田漁港、豊洲市場のご関係者様、地域マリンビジョンご担当者様、この度はお忙しい中、本会議へのご出席、ご協力を賜り誠にありがとうございました。お陰様で有意義な会議・現地調査となりました。

### ＜アンケート調査について＞

会議終了後、現地調査にご参加いただいた委員の皆様を対象に、現地調査に関するアンケート調査を実施しました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。  
次頁に委員の皆様の声をご紹介します。



千客万来施設

## 現地調査に関するアンケート調査結果（一部抜粋）

### 1. 保田漁港（食堂、直売所等）について

#### ① ご自身の地域で参考にできそうなことはありましたか？

- 当町にも鮮魚を売ったり食事ができる直売所があり、賑わっていましたが、コロナ禍で休業したままとなっています。ばんや食堂を見て、当町も必ず復活するぞ!という気持ちになりました。
- ばんや食堂は、町、組合、組合員が一体となって取り組んだ結果だと思います。地理的立地条件も良かったと思います。
- マリーナとしての利用促進は、人手を必要としないで収入源になるので、良い方法だと思います。
- PRの仕方や販売しているものが参考になりました。
- 食堂や直売所、駐車場は、当町の漁港で種苗生産施設用地や環境整備施設用地を活用してできるのではと思いました。将来的に観光船と一緒にそこを中心に海業が展開できればいいと思います。

#### ②保田漁港の現地調査で印象に残ったことや感想を教えてください。

- 定置網体験など観光に力を入れているところが興味深かったです。
- 行政を十分に活用（補助金等）し、組合独自のプレジャーボート係留、上架を呼び込んでいるところは参考になりました。
- 平日にもかかわらず多くの来客があり、地理的に良い場所なのかと思いました。
- 当時の組合長の先見の明、組合員や職員の柔軟な考え方やアイデアがあって、大規模な施設に発展していったのだと思いました。組合職員が網起こしに行き、メディア関連にも出演するなど、宣伝力が素晴らしい。
- 漁協職員や組合員が高齢化などで少ない中で、食堂の規模を拡大しながら地元の魚を多くの観光客に提供しており、職員や地域の方々の熱意を感じました。

#### ③道の駅「保田小学校・保田小学校付属ようちえん」で印象に残ったことや感想を教えてください。

- 廃校施設を有効活用し観光拠点にするという発想に感銘を受けました。当町でも参考にしたいと思います。
- 地元の水産物やお菓子などがあって楽しかったが、水産物の販売スペースがもう少しあれば良いと思いました。また、冷凍の商品が発送できると更に良いと思いました。

### 2. 豊洲市場について

#### ①ご自身の地域で参考にできそうなことはありましたか？

- 豊洲市場内を走るターレは、電動で排気ガスを出さないため食品にも安全で、当町でも取り入れたいと思いました。
- 規模が違いすぎて参考にするという視点では見られませんが、漁業を営む者として一度は見てみたい施設だと思います。
- 衛生面や省エネの取り組みは参考になると思います。
- 自分の地域とは規模が違うが、荷揚げやセリなど、普段から漁業に触れ合える場があればいいなと感じました。

#### ②豊洲市場の現地調査で印象に残ったことや感想を教えてください。

- 外との遮断により衛生管理や温度管理が徹底されている点。
- 衛生管理や省エネ、緑化など、環境に配慮されていると思いました。
- 衛生管理体制が素晴らしく、日本一の施設だと思います。見学もしやすく勉強になりました。
- 見学者用の通路が整備されており、衛生的に見学ができる点が参考になりました。

### 3. 全体を通して

- 今回初めての参加でしたが、とても勉強になりました。また是非参加したいです。
- 他の女性委員の参加がもう少し多くなる時期はないのでしょうか？
- 夏は自分の家の仕事等で忙しいので、今の時期でいいと思います。色々な地域の方々と交流できて楽しかったです。
- 初めて現地調査まで参加したが、道内他地域や保田漁港の取り組みを見聞きして、当町でも参考となる事例が多々ありました。また、どこの地域も悩みは同じなんだと思いました。参加して良かったです。

#### 🌀 連絡先 🌀



マリンビジョン女性交流会議事務局

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 北海道開発局農業水産部水産課

TEL：011-709-2311（内線5579）漁港漁村係

FAX：011-709-5026

E-mail: hkd-ky-mv21@gxb.mlit.go.jp